佐賀市男女共同参画情報誌

ぱ　す　ぽ　ー　と

Passport

2026　秋　Vol.56

自分らしく暮らせる社会へ。
お互いに認め合い、個性と能力を発揮できる
佐賀市の実現を目指しましょう。





第５次佐賀市男女共同参画計画に寄せて～
審議会会長を務めた田口香津子さんへインタビュー



男性育児休業取得者へインタビュー



女性活躍推進セミナー



SAGA×WOMAN EXPO2026

◆ CONTENTS ◆

田口香津子さんへインタビュー　…P1
第５次佐賀市男女共同参画計画　…P2
SAGA×WOMAN EXPO2026　…P3～P4
男性育休取得者へインタビュー　…P5
男女共同参画推進協賛事業所の紹介　…P6
「ジェンダー平等あたりまえ」の社会に向けて　…P7

佐賀市 男女共同参画課

“ジェンダー平等あたりまえ都市”へ 一歩ずつ

佐賀市は、「第5次佐賀市男女共同参画計画」（以下「計画」）を策定しました。
計画では、ジェンダー平等が根づく佐賀市を目指します。
策定にあたって佐賀市男女共同参画審議会で会長を務められた田口香津子さんに、策定に関わっての経緯や思い、佐賀市のこれからについて伺いました。



田口 香津子 さん
佐賀県立男女共同参画センター（アバンセ）前館長
佐賀女子短期大学元学長

Q & A

Q1　第５次計画で一番重視されたことは？

計画案の中身をものすごく丁寧に見ていきました。
グラフの一つひとつも吟味し、佐賀市の現状が伝わる資料となるよう時間をかけて検討しました。分かりやすくする一方で、伝えたいことが曖昧になってはいけないので、バランスを大事にしました。“ジェンダー平等あたりまえ都市”という言葉を掲げることが決まったとき、この計画を進めていく意味が明確になったと感じました。

Q2　“ジェンダー平等あたりまえ”に委員の皆さんの反応は？

委員の間でも意識が様々で、「ジェンダー平等を進める」と言っても、立場やこれまでの学習経験などによって受け止めが異なりました。様々な考え方がある中で、女性への支援が必要となるケースが多い一方、「あらゆる立場や状況を想像しながら計画を作っていく」ことを意識しました。ジェンダーについての意識が様々であったからこそ、コラムを入れて伝わりやすくするというアイデアも生まれました。

Q3　“ジェンダー平等あたりまえ”とは、どんな風景が広がっていくのでしょうか

フェアじゃない状況が当たり前すぎて「そんなもんだ」と受け止めていることが、まだ身近なところでもあります。例えば、地域の会合で女性がお茶くみをして男性が待っているような固定的な役割分担も、その一つです。
一方、「気づいたら少しずつ変えていいよね」という意識はどの年代にもあると思います。例えば、佐賀市議会でも女性議員が増えました。以前は２，３人しかいないことが当たり前だと思っていたのに、今は10人になっています。こうした変化が少しずつ広がっていくのだと感じています。

Q4　市民の皆さんへのメッセージをお願いします

これは形だけの計画ではなく、本当に思いを込めて、みんなで作った“羅針盤”です。
市民の皆さんにとっても、佐賀市を“ジェンダー平等あたりまえ都市”にしていくことを一緒に考えていただければと思います。
まずは手に取って、自分が困っていることや気になっていることにつながる部分だけでも見ていただけたら嬉しいです。

＜感 想＞
計画は、性別に関わらず、暮らしやすさにつながる取り組みです。特別なことではなく、佐賀で暮らす私たちの“毎日の安心”につながる“くらしの話”だと感じました。一人ひとりの気づきや声が佐賀を少しずつ前に進めていくのだと思います。
（編集委員　手塚美代子）

第５次 佐賀市 男女共同参画計画を策定しました

この計画が目指すこと

性別にかかわらず、誰もが自分らしく生き方を選び、その選択が尊重される佐賀市へ。
第5次佐賀市男女共同参画計画は、家庭、職場、地域、学校などの毎日の暮らしに関わる場面から、ジェンダー平等を進めていくためのこれから先5年間の計画です。

第5次佐賀市男女共同参画計画のビジョン

佐賀市を、“ジェンダー平等あたりまえ都市”にする。

1 4つの柱から、暮らしの場面へ

第5次計画は、4つの柱（基本方向）から成り立っています。その内容は、家庭や職場、地域など、私たちの日々の暮らしとつながっています。
「これ、自分にも関係あるかも」と感じる身近な場面から、4つの柱を見てみましょう。

- Ⅰ 人権の尊重と多様性・男女共同参画
- Ⅱ さまざまな分野で女性が参画できる環境
- Ⅲ だれもが共に働きやすい環境
- Ⅳ 安全・安心で自分らしく暮らせる環境

2 グラフやコラムで、さらに身近に

計画では、関心の高いテーマやさまざまな意見を、グラフやコラムでも取り上げています。

数字や具体的な事例から見ていくと、ジェンダー平等が、家庭や職場、地域など、私たちの日常のさまざまな場面につながっていることが見えてきます。



概要版には各種相談窓口も掲載！

計画と概要版は、佐賀市ホームページからご覧いただけます。ぜひご覧ください！

第5次佐賀市男女共同参画計画

概要版

コラムタイトル一覧

- 『ちゃんづけ』はいけないこと？
- 多様な健康課題とジェンダー平等
- 性の多様性とは
- 性的な被害と複合的な困難

…など、様々な視点でジェンダーにまつわる話題を解説しています。

佐賀市女性活躍推進セミナー「笑顔で夢をカタチにするワークショップ」

開催日：令和8年1月17日（土）
会　場：ホテルマリターレ創世
講師・ナビゲーター：渡辺千穂さん

5～6名ずつのグループに分かれて「準備に困っているリーダーのためにメンバーがアイデアを出し合い、『助けて！』と言いやすいチームになる方法」をテーマにロールプレイを行いました。



＜助けて！と言いやすくする工夫＞

- ＊言葉・態度　…　「大丈夫？」「何か手伝えることある？」と声をかける
- ＊雰囲気づくり…　雑談の時間を作る、笑顔であいさつする
- ＊仕組み　…　週1回のもやもや共有タイムを設ける
- ＊自分の行動 …　自分から「ちょっと助けて！」と言ってみる

★参加者の声　「笑顔」という簡単なキーワードで他の人と共有できるところが良かった。／将来は管理職を目指しているので参考になった。／いろいろな方の人生を知ることができて自分を見つめ直すきっかけになった。

＜感 想＞

グループでのワークショップでは、話し合いが進むにつれ場が和やかになり、参加者が笑顔で自分の考えを積極的に伝えられていたのが印象的でした。「“ひとりでがんばるキャリア”から“つながりの中で育つキャリア”へ。『助けて』は、あなたのキャリアの可能性をひらく、あたたかくて、力強い鍵。どうかこれからも、その鍵をポケットにしまわず、そっと手に握って歩んでいってください」というメッセージが心に残りました。

（編集委員：椛島陽一郎、草野圭織）

SAGA×WOMAN EXPO2026
佐賀がくれた、私らしさ
～中越典子、山口知事が語るふるさとと未来～

開催日 令和8年7月25日(土)　**会　場** SAGAアリーナ

登壇者 中越典子さん(俳優)、山口祥義(よしのり)さん(佐賀県知事)

モデレーター 片野　温(まどか)さん(日経BP)

佐賀県で初めて、WOMAN(ウーマン) EXPO(エキスポ)（日経新聞・日経 BP 主催の働く女性のためのキャリアや健康、学びなどに関する情報や体験を提供するイベント）が開催されました。オープニングのセミナーを飾ったのは、佐賀市出身の中越典子さんと佐賀県の山口知事のトークセッションです。県の取り組みや、佐賀の持つ価値について語られていました。

Q. 中越さんの東京での子育て環境はいかがですか？

中越さん：東京では近くに親族がいない核家族なので、近所のママ友・パパ友と協力しあってみんなで子育てをしています。

山口知事：佐賀では、昔は三世代同居が多かった。ただ最近では、これまでの三世代同居から、親の近くに住んで、必要なときに子育てを助けてもらうスタイルも増えているようです。

Q. 中越さんの原点となった、佐賀のポテンシャルは？

中越さん：自然・食・人が素晴らしくて居心地が良いという点です。佐賀という自分の原点、地盤があることでいきいきと暮らせて、帰るたびにパワーをもらえます。

山口知事：「子育てするなら佐賀がよかっちゃなか？」という人が徐々に増えていて、みなさん佐賀の虜になっていますね。県民所得も上昇していますし。

◇誰もが自分らしく生きられるように、県による「もんだプロジェクト」が始動◇

山口知事：「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」という言葉を、より身近に考えてもらうために、私は『もんだ症候群』と呼んでいます。

例えば「家事は女性がするもんだ」というような固定観念を、みんなであらためて考え直していこうという取り組みです。

中越さん：私たち女性も「私が料理をやるもんだ」と思い込んでいることもあるので、そういう時はパートナーが自然に引き受けてくれたらなと思います。



＜感 想＞

お二人の対談を聴いて、佐賀ではあらゆる人が自分らしく暮らせるまちづくりが進められていることを実感しました。また、アンコンシャス・バイアスを「もんだ」の一言に置き換えたこともさすがだなと思いました。分かりやすい言葉にすることで、さまざまな人と対話が生まれるきっかけになるのではないでしょうか。

（編集委員　草野圭織）

SAGA×WOMAN EXPO2026
私らしい未来の設計図
～田中道子が語る、夢を形にする力～



開催日 令和8年7月25日(土)

会　場 SAGAアリーナ

トークゲスト 田中道子さん(俳優・一級建築士試験合格)

本セミナーでは、俳優として活躍される一方、2022 年には最難関国家資格の一つである一級建築士試験に合格した田中道子さんをゲストに迎え、3 つのテーマを軸にトークセッションが行われました。建築の道を志したきっかけや、仕事に向き合う日々、夢や目標向かって挑戦を続けるための考え方など、ご自身の経験を交えながらお話しされていました。

TALK SESSION 01 建築の原点

一級建築士試験に合格された田中さんが、建築の道を志したきっかけを教えてください。

田中さん： 2011 年の東日本大震災がきっかけでした。当時は大学３年生で静岡にいたのですが、みんなで作り上げた街が一瞬にして失われていく様子をテレビで見て非常にショックを受けました。それを機に、**建築は人の命や暮らしを守るもの**だと改めて実感し、使命感をもって建築の勉強に励みました。

TALK SESSION 02 子育てとの両立

育児と仕事を両立するために意識していることや、良い意味で手放したことはありますか？

田中さん： 夫が静岡に住んでいるので、育児はワンオペでやっています。育児をするときは育児に集中して、息子が寝ている隙をついて仕事や家事をすることで、中途半端にならないように心がけています。**こどもと自分が元気なら 100 点満点**だと思っているので、育児や家事ではあえて完璧を求めすぎないことは意識しています。完璧を目指す育児ってちょっと寂しいですよね。だからこそ、建築の仕事とは違って、育児や家事にはゆとりや無駄があってもいいと思っています。

TALK SESSION 03 夢を形にする力

仕事や育児に情熱的に向き合う田中さんですが、モチベーションを保ち続けるためのコツはありますか？

田中さん： モチベーションがなくなってしまうときもありますが、今はとにかく**家族が笑顔で過ごせること**を一番のモチベーションにしています。やる気がなくなったときでも、未来で楽しそうに生きている私を思い描いて「今日はちょっとでもいいから頑張る」ということを意識して、情熱の火を消さないようにコツコツ頑張っています。

最 後 に

一級建築士試験合格という夢を叶えた田中さんが、次に目指している姿はありますか？

田中さん： 一緒に仕事をした方や、私の仕事ぶりを見てくれた方が笑顔になってくれるようなお仕事ができたらいいなと思っています。今は芸能や建築の仕事をしていますが、10 年後に何をしているか分かりません。その時々で社会貢献できるような、かっこいい女性になりたいと思います。

＜感 想＞ ドラマや映画では見ることのできない、田中さんの親しみやすい一面を、家事や育児にまつわるお話から感じることができたのも印象的でした。仕事や育児に真摯に向き合う姿は、育児に励む方や建築業界で働く方だけでなく、それぞれの目標に向かって努力するすべての人に、勇気と前向きな気持ちを与えてくれるものでした。　（編集委員　濱田仁晟）

男性育休取得者へインタビュー

パパの育休、もっとあたりまえに。

育休を取ることで見えてきた、家族との時間や仕事への思い。
育休を経験した方の声を紹介します。



（サガテレビ記者 廣瀬さん）

夫婦で育児を担いたい―第２子の出産で育休取得

第1子の出産時は里帰り出産だったこともあり、育児休業は取得しませんでした。第2子の出産は里帰りをしないことが決まっていたので、自分も育児に関わり、妻の支えになりたいと考え、取得を決めました。部署を異動したばかりで、申し出る時に「言いづらさ」はありましたが、職場には過去に約1か月間取得した前例もあり、スムーズに承認してもらいました。

こどもとの向き合い方が変わった

育児休業を通して、今しかないこどもとの時間を大切にしたいという気持ちが強くなりました。第1子を外へ連れ出したり、一緒に料理をしたりと、こどもたちと過ごす時間を意識的に作りました。また、少しでも妻が寝る時間を確保できればという思いで、夜中の授乳を自分が担当しました。

こんなに時間がないんだ

第1子の身支度、幼稚園への送迎、買い物、食事の準備などをしていると、1日が過ぎるのが早く、「こんなに時間がないんだ」と実感しました。妻の育児の大変さを実感し、分担しながら家事・育児ができたのは良かったと思います。世の中の子育て中のお父さん、お母さんは「みんな頑張っていてすごい」と感じています。

人生における1か月

新生児という一生に一度のわずかな時間を家族と共有できて良かったと思います。育児休業中は、「たった1か月。人生における1か月」と考え、家族や自分自身と向き合えるとてもいい時間になりました。

どうせなら楽しめ

育児休業に入る時、上司から「頑張れ」ではなく、「どうせなら楽しめ」と声をかけてもらい、気持ちが楽になりました。若い社員には、「育児休業はどんどん取得していいと思う」と話しています。私たちが取得して得た体験を後輩に伝え、「育児休業を取っていいんだ」と思える雰囲気を作ることも自分たちの役割だと思います。こどもや家族と過ごせるかけがえのない時間を大切にしてほしいです。

＜感 想＞

男性の育児休業取得が当たり前になる雰囲気が徐々に社会で醸成されてきました。インタビューからは廣瀬さんの満足感や充実感が伝わってきました。男性が自然に育休を取得できる社会になることを期待します。（編集委員　椛島陽一郎）

INFORMATION

”わが家流”の家事シェアを見つけよう！家事育児チェックシート

料理や掃除、こどもの世話などを「誰が担当しているか」を見える化してみませんか？チェックシートをきっかけに、わが家に合った分担を話し合いながら、わが家にぴったりの家事シェアを見つけてみましょう。



オンライン診断はこちら

https://fjq.jp/saga-shindan/

佐賀市男女共同参画推進協賛事業所紹介

市とともに男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている事業所を紹介します。(五十音順)

一般社団法人　佐賀県農村地域情報センター
（栄町）情報サービス業

当センターは、佐賀県内ＪＡの電算システムを開発・運用しています。職員数は５０名程度ですが、育児休業取得率は男女ともに１００%。時短勤務やフレックス等、各種制度の整備に積極的に取り組んでいます。仕事と家庭の両立を大切にし、誰もが長く活躍できる職場を目指しています。



佐賀新聞メディアホールディングス
（白山）その他事業サービス業

佐賀新聞メディアホールディングスは、企業版ふるさと納税で自治体と企業の地域課題解決を支援します。男女とも働きやすく、勤務時間選択など柔軟な働き方ができる職場環境づくりを強みに、計画策定から連携先探しまで伴走。企業の社会貢献や新規事業、ブランディングにつながる地域共創を実現します。

株式会社佐電工
（天神）設備工事業

来年創業 100 周年を迎える当社は、電気･空調･給排水衛生設備の設計・施工・保守を通じて、地域社会の発展と快適な暮らしを支えています。また、男女がともに活躍できる職場づくりを推進し、働き方改革や仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいます。



野中建設株式会社
（富士町）総合工事業

野中建設株式会社は、性別に関わらず誰もが安心して働ける職場づくりを進めています。育児支援や働き方の工夫に加え、子どもが親の働く姿を見にくる『お仕事参観日』も実施し、家族に寄り添う会社を目指しています。



株式会社バイオテックス
（久保田町）建設業

当社は「地球の健康みんなの健康」を行動指針に、脱炭素経営と健康経営を推進しています。
社内ジムや健康増進型保険を整備し、週１回程度のボディメイク、ゴルフ、ヨガ指導など運動を継続しやすい環境です。女性特有の健康にも配慮しており、佐賀市の協賛事業所として誰もが活き活きと活躍できる職場づくりを実践しています。



男女共同参画推進協賛事業所募集中！

事業所での男女共同参画の推進は、子育て環境の整備や仕事と家庭生活の両立支援など、事業所のイメージアップに繋がります。協賛事業所への登録をお待ちしています！

担当：佐賀市男女共同参画課
電話：0952−40−7014
FAX：0952−29−2095
※申込用紙は市ホームページからダウンロードできます。

男性の育休取得を応援！PAPA STEP奨励金
詳しくは佐賀市ホームページへ ▶
（佐賀県SAGA PAPA育休アシスト奨励金も併用可。※別途申請必要）



SDGs 5
ジェンダー平等

「手伝う」から「ともに担う」へ
日常の“あたりまえ”を見直して、ジェンダー平等を一歩前へ

ジェンダー平等とは、みんなを同じにすることではなく
「性別にしばられず、自分で選べること」を増やしていくこと

家庭、職場、学校、地域の中には、私たちが気づかないまま受け入れている「あたりまえ」があります。
たとえば、「家事は女性が得意」「力仕事は男性」「リーダーは男性のほうが向いている」「男の子だから泣かない」「女の子だから気を配って」。こうした何気ない言葉や役割分担が、一人ひとりの選択肢を狭めてしまうことがあります。

1 “誰がやるもの?” を問い直してみる

家事には、料理や洗濯のほかにも、在庫管理、献立を考える、ゴミをまとめる、こどもの持ち物を準備するなど、見えにくい「名前のない家事」がたくさんあります。家事や育児を「手伝う」と考えると、主な担当者が別にいる前提になりがちです。家事はだれか一人に集中すると大きな負担になります。大切なのは、「誰かの仕事を手伝う」から「暮らしをともに担う」へ、発想を変えていくことです。

こんな言葉を、少し言い換えてみませんか?

よくある言い方	選択肢を広げる言い方
「家事を手伝うよ」	「家事、今日はどう分けようか」
「男の子なんだから」「女の子なんだから」	「あなたはどうしたい?」
「お母さんがやるもの」	「誰ができる?どう分ける?」
「女性なら気が利くよね」	「気づいた人が声をかけよう」

2 “こうあるべき”から自由になる

ジェンダー平等は、女性のためだけのものではありません。「男性は仕事を優先するべき」「女性はこうあるべき」といった性別による思い込みから自由になることは誰にとっても大切です。育児や介護に関わること、自分の気持ちを言葉にすること、仕事や学びに挑戦すること、好きな分野を選ぶこと。性別にとらわれず、自分らしい選択ができることにもつながります。

3 今日からできる、小さな3つの一歩

- 「男だから・女だから」と決めつける言葉に気づいたら、一度立ち止まって考える。
- 家事・育児・介護・職場の雑務など、見えにくい役割も含めて誰が担っているのか話し合う。
- こどもにも大人にも、「あなたはどうしたい?」と本人の気持ちや希望をたずねる。

編集後記

自分らしい選択が尊重される社会へ。

ジェンダー平等は、特別なことではなく、家庭や職場で交わす言葉の選び方や、役割の分け方、相手の選択を尊重することから始まります。日々の小さな気づきを、次の一歩につなげていきませんか。

（編集委員　江頭美代子）

編集委員
（五十音順）
江頭美代子・椛島陽一郎・草野圭織
手塚美代子・濱田仁晟
※編集委員は市民の方々にご協力いただいています。

発行・お問い合わせ
男女共同参画課
TEL　0952-40-7014
Mail　danjo@city.saga.lg.jp

過去の「ぱすぽーと」がwebで閲覧できます!
検索→『佐賀市男女共同参画情報誌「ぱすぽーと」』